

上毛高原駅を核としたまちづくり構想策定委員会（第3回）会議録

■ 日 時：令和3年12月17日（金）午前9時25分～午前10時50分

■ 場 所：みなかみ町観光センター2階会議室

■ 出席者

①上毛高原駅を核としたまちづくりビジョン策定委員会（15／16名）

入内島 一崇、熊倉 浩靖、森 健治、牧田 直己、茂木 法志、田村 秀、
杉木 寿一、阿部 等、諸田 弘、小野 与志雄、持谷 明宏、岡村 建、
森下 一郎、内海 美津江、宮崎 育雄

②事務局（7／7名）

みなかみ町商工会事務局長 田村 廣樹、みなかみ町観光協会専務理事 山賀 晃男、
観光商工課長 高野 明夫、主任 須田 啓介、
総合戦略課長 林 市治、室長 竹内 理恵、主幹 原澤 育男

■ 配付資料

①会議資料

資料 上毛高原駅周辺の課題とまちづくり構想（案）

■ 会議内容

1 開会

2 委員長あいさつ

入内島 本日で第3回目を向かえた。第1回目は、まちづくり構想への方向性や意気込みを町より説明してもらい、第2回目は、委員会をどう進めていくのか、どのようなタイムスケジュールで行うかなどを議論した。本日は、今までの検討を踏まえ、構想のたたき台を基に、委員皆様の意見を頂戴し、2月には策定を目指したい。

3 新規委員自己紹介

森下 有意義な意見交換の場に参加させていただくので、よろしく願いたい。

内海 農業委員、女性の立場として意見を述べていきたい。

4 議事

(1) 上毛高原駅を核としたまちづくり構想（案）について

田村（資料P 1～4により説明）

- ・構想の骨子を今回示し、皆さんから意見を頂いた上で、具体的な提案に盛り込んでいきたい。
- ・基本的な構成は、1. 構想の背景、2. 基本的な考え方、3. 課題の整理、4. 具現化するための提案2本柱、5. 留意事項、6. 参考資料 としたい。
- ・商工会、観光協会が中心となって駅名変更の活発な署名活動が行われ、1万人以上の署名が集まった、これが一丁目一番地である。

事務局（資料P 5により参考資料説明）

当委員会でも、また準備会でも駅名改称の例として提示した資料であるが、あえてまた参考資料としたのは、JR常磐線佐貫駅の駅名は昨年（2020年）3月に龍ヶ崎市駅に改称されたが、今年（2021年）9月に駅名改称事業に関する違法公金支出損害賠償住民訴訟事件に係る訴状を市で受理していることがホームページに掲載されていた。

原告は市民1名で、内容は、駅名改称に係った事業費約2億5千万円の支出は違法であるということで市が市長へ事業費を請求する訴状を提出したものの、駅名改称事業は終了していないので、再度提示した。

田村（補足説明）そもそも反対もかなりあったらしい。住民投票条例案も議会で提案されたが否決となった。また、市民意識調査から8年というだいぶ時間が経ってからようやく駅名改称の覚書を交換したりと紆余曲折を経たうえで昨年駅名改称が行われた。

資料には書かれていないが、今年（2021年）7月に住民監査請求が却下され、9月に住民訴訟が提起されている。

ちなみに龍ヶ崎市には、（私鉄）関東鉄道の佐貫駅とJRの龍ヶ崎市駅、二つ駅がある。

岡村 駅名改称の時期について2024年（北陸新幹線の敦賀延伸）と2030年（北海道新幹線の札幌延伸）どちらを目指すのか。

また、佐貫駅改称の予算が2億5千万円となっているが、上毛高原駅の駅名改称には、実際どのくらいの事業費がかかるのか。

田村 あくまでいち委員としての意見になるが、何も新幹線が変わらない時期にこの駅だけになると、とてつもない金額になる可能性があるのでは。

在来線であれ、大きな変化の時に合わせて行うことで、龍ヶ崎市もそうだったが上手にやることで経費が少し削減できた。現実的には2024年と2030年があるが、個人的には2024年を目指すべきではないかと思う。

金額の話は、町としてできるだけ少ない負担でできるようにまちづくりとセットで考える。JR東日本が駅周辺の開発について検討していれば、もしかしたら安く済むかもしれない。実際こういった意向があるかまったく分からないが、そういったことを探りつつ、駅名変更プロジェクトとまちづくりプロジェクトを2022年度進めて行くことが大事ではないか。

宮崎 まったくその通りである。いきなりいくらかかるんだといってもJRが詳しい値段を提示するとは思えない。やはりトータルで色々な話をしていく中で、最終的に費用負担がどのくらいかという話がでてくる。

2024年と2030年の話があったが、はやい方がよいに決まっている。田村委員が言われたように早い時期を見据えて進めていくことになると思う。

阿部 前回（2012年）の駅名改称の運動は、金額の問題がネックでたちぎえになったと聞いている。その時金額が提示されたのでは。

宮崎 話の中でいくらくらいかかりますよという話題がでたと聞いている。駅名だけ変えるとなると関連する事業がないので、15億とかそんな話がでたと聞いている。

田村 少なくとも億単位になる。龍ヶ崎市駅も2億5千万円。在来線でもそのくらいの金額になるという事実がある。

入内島 やりたくなければ高い値をつけるが、みんなで話し合っ分担するなど色々な方法がある。まずは、群馬県の奥にあるみなかみ町ではなく、群馬県の観光の重要な意味をもつ地域にどれだけ関心を持ってもらえるか、我々が情報発信していく。重要なことは、その想いをJRが汲んでもらえるような魅力のある提言をこの委員会でどう組み立てるかである。

熊倉 参考に只見町はユネスコエコパークに指定されているが、「自然首都・只見」というネーミングでブランディングを進めている。伝統的な工芸品が商品として定着し、かなり売れるようになってきている。只見という言葉でコトが動き始めている。

同じようにみなかみ町も「みなかみ」という言葉がブランドになりつつあ

る。みなかみ18湯と見事なネーミングだが、上牧、宝川、猿ヶ京、法師とそれぞれで知名度はあるが、みなかみにあるというイメージが今定着しつつある。みなかみのブランディングの一つとして駅名変更を考えた方がよいのでは。構想（案）の「4 具現化するための提案2本柱」をしっかりと議論することが先ほど委員長の言われたこと繋がると思う。

駅名変更プロジェクトは、戦術をどう練るかだが、合意があまりできていない。より多くの人々が納得するような戦術を組む必要がある。

例えば、来年が新幹線開業40周年であるならば、新幹線開業40周年のみみなかみ町のプロジェクトとして駅名をみなかみにするというプロジェクトを挙げていく。2024年までの丸2年間かけ、みなかみ町だけではなく、県や国や温泉地等々にお見えになる方も含めて、なるほどこれは「みなかみ」なんだという戦術をどう練れるかがとても大きい。

JR自身がプロジェクトを起こしたいと思うような絵を描き、相手から極端に言えばタダでやりますと言わせるような戦術を議論した方がよい。

田村 P5の「参考資料」龍ヶ崎市の駅名変更は、最初市民意識調査を実施したが、こういったことをやるのかやらないのかといった考え方もある。龍ヶ崎市では現状でよいといった意見が多かったので、少し動きが停滞してしまった。

事務局 市民意識調査の結果がホームページに掲載されていたので、参考までに報告すると駅名変更した方がよい33%、そのままでよいが64%だった。

諸田 「仮称」であることを強くアピールしていくべきでは。

入内島 1万648人分の署名のうち2,000人分は前橋市の住民、うち1,000人分は医療保健関係の大学から集まった。それだけ若い人たちがみなかみに理解してもらっている。

みなかみ町のダムで貯めた水が首都圏3千万人の命の水になっている。その一滴は大水上山からでていて、命の一滴にもみなかみという名が付いている。我々が共生することによって自然が保たれていることをもっと地元の間が知って、みなかみに愛着を持ってもらう。

また、町をアピールするには、もっと愛郷心を持つべきである。愛郷心を持つためには、旗印が大事である。旗印はとって付けた名前ではなく、既存で使い慣れた愛着のある名前を駅に着けてもらいたいということである。まずは、ここでしっかり議論して心に響く内容をまとめ、2024年を目指してJRに交渉の場にでてもらうように我々自らが行動していくこと大切である。

杉木 集まった署名をみると熱意は相当なものがあると思う。委員長は商工会長として、商工会関係者や観光関係者等へ駅名変更の熱意を伝えている。特に片品村は尾瀬があるということでかなり協力的であると聞いている。積極的に進めてもらいたい。

田村 名前をどうするかといった時に、一般的なやり方は公募だが、ほぼ「みなかみ」でいく感じか。

杉木 商工会の関係から言わせてもらおうと協力してもらえる片品村商工会の関係者からは、「みなかみ」に「尾瀬」を付けてほしいという話もある。費用的な分担を考えるとこれもアリかなあといった意見もでている。

田村 在来線をどうするかといった話もでてくる。漢字の水上駅がそのままなのかそうではないのかといった議論も当然でてくる。

諸田 前回の委員会で想定の話だったが、30年、50年先には、上越線が廃線になるという話がでた。万が一廃線になると「みなかみ」という名前が無くなってしまい、ますます印象の薄い町になってしまうのでは。

阿部 署名をもらった時に「みなかみ尾瀬」がいいといった意見が多かった。

小野 戦術として「みなかみ駅にしたい」といった方がまわりを巻き込みやすく、話が進みやすくなるのでは。具体的な駅名を決めて進めていく、何もない状態だと相手も乗ってこない。

JRに話を聞くと、赤字が酷く駅名変更とっている状態ではないが、来年の夏くらいまでには、体制を立て直すと思うので、その時期になればJRを含め話ができればよい。

先ほど廃線の話があったが、SDGs等踏まえ在来線の廃線はないと思うが、上越線には危険箇所がいくつかあり、人を乗せて事故が起きたら困るので、渋川から以北は50%の確立で貨物専用になるかもしれない。

杉木 駅名を「みなかみ」で進めていくことになると、片品は「尾瀬」が付かなければ好きにしてくれとなる。広域の関係では我々には関係ないといった人が多い。

そういった状況を踏まえて、みんなが覚悟を決めることである。小野委員の

話は、早めに目標を決めてそこに向かっていくことが大事であるといった趣旨で受け止めた。

田村 あまりJRを急かすような動きをするのはまずいか。

小野 1年くらいは様子を見た方がよいと思う。

諸田 あまりそういったことは考えなくてよいのでは。

小野 我々は我々で動けばよい。本気でJRに交渉するときは、状況を踏まえタイミングを図る必要がある。

土地開発の分野でJRは子会社がたくさんある。そういったところと提携して駅周辺の開発を進め、その中で、駅名変更についても話をすれば、動いてもらえるかもしれない。JRの子会社を巻き込んで話を進めていくのも一つの手である。

持谷 「みなかみ」という名前の場合、漢字の「水上」とひらがなの「みなかみ」で発音が同じになるので、区別がつかない。水上駅と混同してしまう。

水上駅を「水上温泉駅」にするなど準備した方がよいのでは。個人的には、上毛高原駅を「みなかみ温泉郷」としてもらいたい。

田村 駅名に関して全員が納得することはない。ただ、我々の考えとしては、ひらがなで「みなかみ」を入れることでよろしいか。

諸田 天気予報で「みなかみ」という名前がでている。全国にも浸透しているので、ひらがなの「みなかみ」を入れるべき。

田村 単独の「みなかみ」になる可能性もあれば、「みなかみ尾瀬」、「みなかみ利根」などもある。ただ「みなかみ」を入れるなど核の部分は決めた方がよい。

岡村 インバンウンド対策で世界に向けて発信していく時に、「minakami」だと重複してしまうため、ひらがな「みなかみ」と漢字「水上」の区別はつけるべき。

我々は、将来のみなかみ町の観光振興、地域振興のために駅名を変えたいと思っているので、これから将来を担う子供たちに対しても意見を聞くなど少しずつアプローチを始めていくことが大事では。

田村 先ほど龍ヶ崎市の話をしたが、アンケートはしない方がよいと思っている。もしかしたら龍ヶ崎市のように現状のままと言った意見が多いと動きが鈍くなってしまふかもしれない。ただ2040年、50年は今の子供たちが中心なので、知ってもらうことは大事である。プロジェクトとしてはあり得る。

熊倉 諸田委員が言われてたようにひらがな「みなかみ」でずっと天気予報をだしている。ひらがな「みなかみ」の知名度が上がっている。ブランドになっているのだから、ブランディングの一つとして駅名を変えていくというのは戦術としてあり得る。

自分たちに何ができるか、交渉のやり方やイベントの内容、広報事業など意見を出し合った方がよい。

入内島 先ほど申し上げたが、水の一滴が大水上山からでている、また大正時代に若山牧水がみなかみ紀行を書いたことなど、「みなかみ」の歴史を若い世代に伝えていくことは大事である。ただ、一万人を超える署名を集め、駅名変更に協力しようとする民意があるので、アンケートは不要である。2月までに構想をまとめ、それを基にそれぞれの立場で行動していくべき。

田村 基本的には、構想の1～3はこちらにまかせてもらい、4①、②については意見を事務局まで提出していただく。それを踏まえて、構想を次回に示したい。

杉木 まちづくりに関しては、商工会青年部など若い人たちに参加してもらいたい

宮崎 この委員会で芽が出れば、それをどう育てるかという話になる。商工会には若い人たちやこれから起業する方がいるわけなので、そういった方に参画してもらい内容を詰めていくことが当然必要になる。この委員会では、芽を出す、まずはそこをやるべきである。

田村 色々な意見がでたが、構想（案）を作って示して、この委員会の中でのまとめとする。議会等に説明することになるが、その辺も含めて事務局から次回について何かあるか。

事務局 次回の委員会については、来年2月4日（金）午前9時30分から観光センターで開催を予定している。

内容については、前回、田村委員から1月くらいをめぐりにまとめていこうと提案があったので、今回の意見と今後メール等で意見を寄せていただき、それをまとめたものを次回第4回で構想という形で提示したいと考えている。

牧田 委員長から郷土愛という話があったが、郷土愛が地場産業と地域コミュニティを支えている現状があると感じている。日頃からみなかみの歴史を大事にしているが、子どもたちにどうつなげていくのか、上毛高原駅の歴史や「みなかみ」という名前を入れることも含めて、子どもたちを巻き込んだ体制づくりがよいと感じた。

「みなかみ」という名前を入れることによって町内のメリットは当然だが、利根沼田、高山、中之条も含め他市町村へのプラスの影響をもっと考えていきたい。

茂木 ビジョンやメリットをいかに明確化していけるかが戦略・戦術を考える上で大事なところではないかと思う。

署名をもらっている一人ひとりの思いやコンセンサスを合致させていかなければならないと感じた。

森下 最近は、空き家対策ということで移住者が農園を簡単に借りることができると。まちづくりの構想をまとめる中で参考にしてもらえれば。

内海 駅名変更からはじまった委員会なので、まずは名称をどうするか、いつ頃までにJRと交渉するかなどを議論するべきである。それからタクシーがない、バスが少ないなどの身近な問題を改善して、町の大きな構想へ向かっていけばよいと感じた。話ははやめに進めて、具体化した方がよい。

(2) 次回委員会の開催について

○ 次回の委員会について、次のとおり日時が決まる。

日時：2月4日（金）午前9時30分～

場所：みなかみ町観光センター

○ その他

構想に関する意見は、年内にお願いしたい。改めてメール等でお知らせする。

⇒年内までとなると期間が短く委員の方々も忙しいため、1月11日（火）までと変更し、12月20日付けで各委員宛通知した。